

## 高校と大学の接続に関する四方山話 ～アドミッション業務や入試研究に携わってきて～

林 篤裕

(名古屋工業大学 社会工学専攻  
& アドミッションオフィス)  
e-mail: hayashi.atsumi@nitech.ac.jp



## 【概要】

- ◆ 大学のアドミッション部門は高等学校と大学の接続に関する業務を担っており、代表的なものとしては大学進学に関する情報提供が挙げられる。他にも入試に関する研究や評価、設計・支援やIR (Institutional Research)等が範疇に入る大学もある。これらの業務をこなすには自大学だけではなく広く日本の高等教育に起こっている状況を把握しておくことは勿論のこと、高等学校で行われている諸活動や抱えておられる課題等に敏感になっておく必要がある。アドミッションの諸活動に関わるようになって以来、高等学校と大学の接続はどうあるべきなのかを考えるようになった。
- ◆ 本講演では、アドミッションオフィス教員として日頃感じている事項をいくつか紹介し、高等学校現場におられる皆様のご意見もお聞きかせいただきながら、この課題を一緒に考えてみたいと思う。
- ◆ 日本の将来を担う若者の育成を担っている者同士として、今回の講演が多少なりとも考える端緒になれば幸いである。

2

## 【講演内容】

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 名古屋工業大学の概要     | 9. 大学という教育機関の意義    |
| 2. 私の思いの根幹        | 10. 調査書の大学入試での取り扱い |
| 3. 私が感じる高等学校教育の現場 | 11. 大学の悩み          |
| 4. 進路指導           | 12. 若者の気質          |
| 5. 「年内入試」について     | 13. 言語運用能力の涵養      |
| 6. 高等学校教員の養成      | 14. 「教養」の重要性       |
| 7. 高等学校教員の主張のユレ   | 15. 思案し続けている話題     |
| 8. 大学見学           | 16. まとめに代えて        |

- ◆ 雑駁な話題の羅列で恐縮です。
- ◆ 考える端緒があれば幸いです。

3

## 0. 自己紹介(専門)

- ◆ (天文学)
- ◆ (工学(機械系))
- ◆ **統計学**:(今で言うデータサイエンスの根幹部分)
  - ◆ データに内在する構造を見つける、探索する
  - ◆ 諸科学の支援: 医学、工学、農学、心理学、経済学、...
- ◆ **教育学**:
  - ◆ コンサルテーションシステム、学習診断
- ◆ **高等教育論**:
  - ◆ 共通試験のあり方、入試・高大接続のあり方、“良い”選抜とは? どうやって評価する?
- ◆ **論理的記述力(国語学)**

4

## 1. 名古屋工業大学の概要

- 明治38年に「官立名古屋高等工業学校」として創設され**120年の歴史**をもつ工学部。
- 国立大学工学部の中でも、**屈指の規模を有する工科系単科大学**。
- **約8万人以上の卒業生**が、国内外の研究機関、企業、公的機関等社会で**活躍**している。
- 近年の**女子学生**の入学比率が**約16.7%**と高い。
- **名古屋市内**のほぼ**中心地**に位置しており、公共交通機関も利用し易く、また**緑豊かな鶴舞公園**に隣接した恵まれた環境。
- 就職率が**99.2%**と高い。
- 学部 4043名, 大学院 1685名, 教職員 528名, 総計 6256名  
(24年5月)



## 2. 私の思いの根幹

- ◆「大学が元気であるためには、高等学校には元気で居てほしい」
  - ◆高等学校の、先生も生徒も
  - ◆大学の修学には高校の勉強が必須 ==> 本学のAP
- ◆高等学校を応援したい。有意義な高校生活を。

【アドミッション・ポリシー: 大学・大学院案内2025: P4~5】

1. 高等学校等で学習する教科・科目の基本的な知識を習得し、これを活用して課題解決を行う能力をもつ人、特に英語の基礎学力と表現力をもつ人
2. 工学や科学技術の学習に特に必要となる数学と理科に関する論理的・数理的・科学的思考力をもつ人
3. 知的探究心が旺盛で、自ら新しい課題を見つけ挑戦し、ものやしくみを創造することで、自然との共生の上に人々の幸福に貢献する意欲をもつ人
4. 他者と意見を交わすことのできるコミュニケーション力をもつ人 (創造工学教育課程)

6

## 3. 私が感じる高等学校教育の現場

- ◆ 全進学時代(高等学校進学率 98.6%(R6))
  - ◆ 大学・短期大学進学率は61.9%(R6)
- ◆ 週5日制
- ◆ 多様化: 生徒、教育内容
  - ◆ 国語: 文学と論理の塩梅
  - ◆ 数学: 統計単元の教育方法、ベクトルの数C移行
  - ◆ 教科情報の取り扱い(2003年から選択必修):
    - 教員配置、教育内容、ICT環境、入試対応、.....
- ◆ 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間  
<====> 総合型・学校推薦型選抜との兼ね合い

7

## 3. 私が感じる高等学校教育の現場

(続き)

- ◆ 教育内容の中学からの持ち上がり
- ◆ アクティブ・ラーニングの導入
- ◆ デジタル教科書、GIGAスクール構想
- ◆ 部活動支援
- ◆ 進路の多様化、知識・進学情報の多様化
  - ◆ 偏っている場合もあり
- ◆ キャリア教育、金融教育、SDGs、選挙権、.....
- ◆ 高校授業料無償化
- ◆ 『高等学校教育は盛り過ぎ、過積載』
  - ◆ 期待が大きいからか? 押し潰されないようにね!

8

## 4. 進路指導: 担当教科の教育と双璧?

- ◆ 入試形態の多様化: 一般・推薦・総合型の比率
- ◆ 18歳の視野から見える世界の限界
  - ◆ 揺れ動く・定まらない指向・嗜好
- ◆ 学部内容(名称)の多様化
  - ◆ 多種多様な「学部名称」。専門職大学も。
  - ◆ 学位名称: 29種類からの派生・拡大 ==> 次ページ
- ◆ 高等学校教員の役割・振舞いの重要性
  - ◆ 常時寄り添っている教員 <====> 一過性の講演
  - ◆ 大まかな学問内容だけでも把握しておけないものか?

9

## 学位名称≡学部名称

- ◆ 1956年から1990年: 29種類
  - ◆ 文学士・教育学士・神学士・社会学士・教養学士・学芸学士・社会科学士・法学士・政治学士・経済学士・商学士・経営学士
  - ◆ 理学士・医学士・歯学士・薬学士・看護学士・保健衛生学士・鍼灸学士・栄養学士・工学士・芸術工学士・商船学士・農学士・獣医学士・水産学士・家政学士・芸術学士・体育学士
- ◆ 1991年以降: 自由化
  - ◆ 250種類(94年)、580種類(05年)、700種類(12年)
  - ◆ 「学位に付記する専攻分野の名称の多様化について」
    - ◆ <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140917.pdf>
  - ◆ 「学位に付記する専攻分野の名称(令和4年度分)」
    - ◆ <https://www.niad.ac.jp/publication/gakui/meishou.html>
  - ◆ 学部名称数: 212学部 (JSPS、科研の所属部局番号一覧(24年))

10

## 5. 「年内入試」について

- ◆ 総合型選抜
  - ◆ 詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法。(以下略)
- ◆ 学校推薦型選抜
  - ◆ 出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、以下の点に留意して評価・判定する入試方法。(以下略)

[令和7年度大学入学者選抜実施要項]
- ◆ 報道に依ると
  - ◆ 『「年内入試」で学力試験実施に批判と歓迎の声... 「困り込みだ」「早めに合格できる」』
    - ◆ 読売新聞 2024/10/05 15:00
      - ◆ <https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20241005-OYT1T50091/>
  - ◆ 『「基礎テスト」新設、私大要望 年内入試の学力把握』
    - ◆ 読売新聞 2025/02/27 05:00
      - ◆ <https://www.yomiuri.co.jp/commentary/20250226-OYT8T50125/>

11

## 大学入試の外形的定義

	一般選抜	学校推薦型選抜	総合型選抜
受験資格	高校卒業	ほとんど現役のみ	現役とは限らない
推薦	不要	学校長による推薦	受験生の自己出願
定員比	前期/後期	5割まで	制限なし(国大協は推薦と併せて5割未満)
入学義務	制約なし	あり	課す場合は大学の責任で
実施時期	2、3月	11月以降に募集・実施	9月以降に募集・実施
指定校等	なし	大学によって異なる	大学によって異なる
共通テスト	課す	課す/課さない	課す/課さない
選抜方法	学力検査	小論文、面接など	他に、面談、講義等、多様

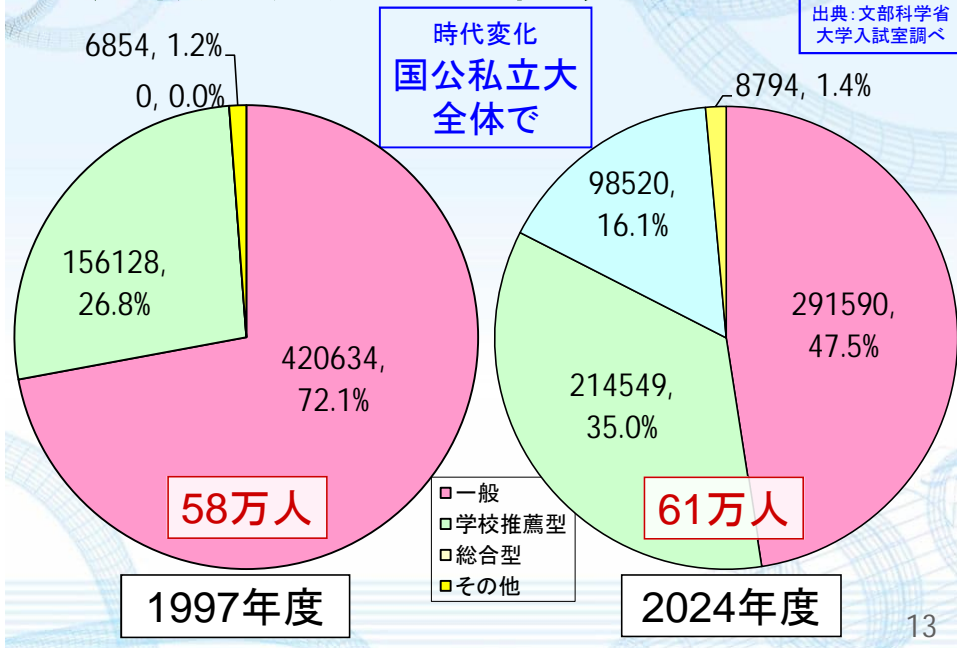
大学入学者選抜実施要項で個別学力検査は2月1日から3月25日まで

特に制限がなく、全ては実施大学の責任で

12

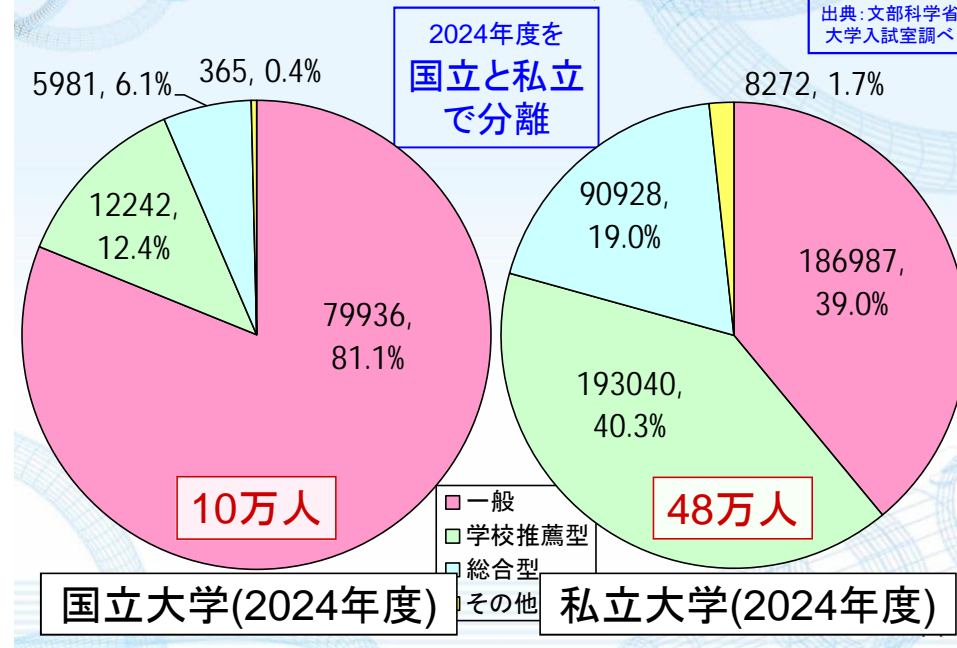
## 選抜区分別入学者数の割合

出典: 文部科学省  
大学入試室調べ



## 選抜区分別入学者数の割合

出典: 文部科学省  
大学入試室調べ



## 5. 「年内入試」について(続き)

- ◆ 共通試験の早期化には猛烈に反対だったはず
  - ◆ 大学入試センター試験の早期実施提案時期
  - ◆ 校長会の反対声明(2000年代): 「高校生を3年間預かっている」、「高等学校文化の崩壊」
  - ◆ 専門学校におけるAO入試等の開始時期について(お願い)(2009/11)
    - [http://www.zen-koh-choh.jp/iken/2009/091116/senmon\\_ao.pdf](http://www.zen-koh-choh.jp/iken/2009/091116/senmon_ao.pdf)
- ◆ 現状を容認・歓迎されておられるのか?
- ◆ 高等学校教育にプラスに寄与するものなのか?
- ◆ これら選抜方法に適した生徒の割合は?
  - ◆ 「5割 or more」も居るものなのか?

## 6. 高等学校教員の養成

- ◆ 教員の多様性担保は?
  - ◆ グローバルが叫ばれている時代の教員像は?
  - ◆ 教員県外卒や人事交流があっても良いのでは?
- ◆ 優秀な教員の確保方策は?
- ◆ 教員採用の早期化: 学部3年生から応募可
  - ◆ 解決策・緩和策になれば良いが。
  - ◆ 「入試の早期化」に反対できなくなったことを自覚しておられるのか?
- ◆ 「採用した側の目利きの問題」ではないのか?
  - ◆ 採用した(or 合格させた)者の教育はその機関が負う

## 7. 高等学校教員の主張のユレ

- ◆「一番手校」所属、「二番手校」所属で教員の主張が異なる。
  - ◆ 転勤した場合の振る舞い。
- ◆ 高等教育側に居る者からすると誰を相手に議論をすれば良いのか?
  - ◆ 人間関係の構築を難しくしてはいないか?
- ◆ 「日本の将来」に寄与する方策は?
- ◆ 前提条件を合わせてから議論する必要がある

17

## 8. 大学見学

- ◆ 何を目的に?
  - ◆ 引率教員には理解しておいてほしい
  - ◆ 高等学校教育の一貫のはず
- ◆ オープンキャンパス: 夏休みの宿題として?
- ◆ そもそも大学は「オープン」なのです  
=> オープンスクールとの違い
- ◆ 職業と絡めた進路指導: 「指導のし易さ」?
  - ◆ 卒業生の発言:  
「卒業研究が直接仕事につながることはない」
- ◆ 大学は「考え方」を修得する場所: 後述

18

## 9. 大学という教育機関の意義

- ◆ 初等中等教育と高等教育の違い
  - ◆ 「教えてもらうのが生徒、自ら研究するのが学生」
- ◆ 就職予備校ではない ← 私見
  - ◆ 高等学校: 大学進学予備校ではない、でしょ?
- ◆ 修得するスキル
  - ◆ 「考え方」「出逢い・気付きの場」「視野を広げる期間」
  - ◆ 単なる技術伝達ではない。職業訓練ではない。
- ◆ 入試: 入学後の修学に耐えるかを判断する試験
  - ◆ 入学式の式次第「入学許可」の意味するところ
  - ◆ 許可する理由は? 「卒業を請け負う」

19

## 大学での「学び」とは

高校と大学で  
全然違う!!

- ◆ 「大学とは?」何?? どんなイメージ??
  - ◆ 専門、自由、夜更かし、留学、趣味、バイト、飲酒、タバコ、一人暮らし、責任、スマホ、選挙、運転免許、サークル、迷子、恋愛、ゲーム、勉強
- ◆ 『今月から学生になったことを自覚せよ』(某学長の入学式での式辞)
- ◆ 外形的には
  - ◆ 学び方の形態では
    - ◆ 生徒: 中学生、高校生
    - ◆ 生徒: 既知の事実を学ぶ人
    - ◆ 学生: 大学生、大学院生
    - ◆ 学生: 未知の予測を  
実証する人
- ◆ 「教えてもらうのが生徒、  
自ら研究するのが学生」
- ◆ 答えの定まらない課題を自ら発見して取り組む

20

## 大学での「学び」とは？

- ◆ 大学での「学び」の楽しみ方
  - ◆ (教員を含めて)誰にも正解が判らない課題に対して
  - ◆ 主体的に探求する＝「研究」と呼ぶ
  - ◆ 他人と協調しながら: 仲間、教員、先輩・後輩、.....
    - 「意見交換の技術」の必要性＝言語運用能力
  - ◆ 「学び方」自身はそれぞれ開発する必要がある
  - ◆ 「してもらうところ(受け身)」ではなく「しに行くところ(自発)」
  - ◆ 自分で行動を起こさないと何も始まらない
- ◆ これらの活動の基礎に高校教育が位置する
  - ◆ 副題:『～有意義な高校生活の先にあるもの～』

21

## (大学が)求めている学生像

- ◆ 高校の勉強をしっかりとした学生
- ◆ 言語運用能力・語学力
- ◆ 意欲・関心の高い学生
- ◆ 幅広い知識や経験を積んだ学生
- ◆ 柔軟な思考力
- ◆ 学ぶ姿勢
- ◆ 共同できる、協調できる
- ◆ .....

- 【他にも】
- リーダーシップ
  - ディスカッション能力
  - 判断力
  - 発想力
  - 異文化理解力
  - 使える英語力
  - 行動力

22

## 10. 調査書の大学入試での取り扱い

- ◆ 「調査書の有効な利用」が謳われて久しい
  - ◆ 「令和7年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」
    - [https://www.mext.go.jp/content/20210729-mxt\\_daigakuc02-000005144\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210729-mxt_daigakuc02-000005144_3.pdf)
  - ◆ 高等学校の基準のばらつき、評価方法、.....
  - ◆ 「現実問題としては難しい」との感触が大勢
- ◆ 追跡調査に関するセッションでの話題
  - ◆ 入研協 全体会1「大学入学者に対する追跡調査研究の現状と展望」on 05/23/2024、2h
    - 「大学入試研究の動向 42号」に掲載
      - <https://www.sakura.dnc.ac.jp/archivesite/research/doko/>
  - ◆ 「調査書の利用方法」を協議すべきではとの意見
  - ◆ 妙案はないものか?

23

## 10. 調査書の大学入試での取り扱い (続き)

- ◆ 高等学校必履修科目未履修問題
  - ◆ 2006年10月発覚: 世界史、公民科目、情報
  - ◆ 「調査書の信頼性」に疑問符が付いた
  - ◆ 経緯・再発防止方策: 早めに総括をすべき
- ◆ 「喉に刺さった小骨のよう」になりはしないか?

24

## 11. 大学の悩み

- ◆ 作題者の後継者育成: 薄氷上の運営
  - ◆ 教養部解体(1990年代中頃)
  - ◆ 共通試験の浸透(47年間): 作題能力の集約
  - ◆ 教員評価の弊害: 「教育」、「研究」、「社会貢献」
- ◆ アドミッション教員の養成
  - ◆ 多様な職務、大学ごとに異なっている
  - ◆ 「アドミッション・オフィスの機能と役割 - 多面的・総合的評価を実現するために -」
    - <https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/journal/no18/03.pdf>
  - ◆ 育成課程がない。多くは「二足のわらじ」。
  - ◆ データを学生に見せられない(秘匿性)
    - [例] 内申評定、試験成績、学内成績、.....
  - ◆ 学外と共有しづらい: 一部は入研協で情報交換

25

## アドミッションセンターの役割

- ◆ 各種調査は入学者選抜研究委員会(入選研)で
  - ◆ 共通第1次学力試験と共に各国立大学に設置(1979年から)
  - ◆ 国立大学の独法化時(2004年)で多くは霧散
- ◆ 国立大学のアドミッションセンター
  - ◆ 3大学からスタート(2000年): 東北大、筑波大、九大
  - ◆ 現在は多くの国立大学に設置されている
- ◆ 業務は多岐・多様にわたる ==> 次スライド
  - ◆ 多くの人目に触れるのは進学説明会か(広報活動)
- ◆ スタッフ=Admission Officerと呼ばれたりする
  - ◆ 大学教員、受験産業、高等学校教員、.....
- ◆ 世間からの要求も高度に: 『多面的・総合的評価』

26

## Admission Officerに求められるスキル

- ◆ 「大学」の熟知
  - ◆ 自大学のみならず他大学も
- ◆ 高等教育の在り方
  - ◆ 在るべき姿が語れるか
- ◆ 入試業務・仕組みの把握
- ◆ 入試動向・教育行政の把握
- ◆ (初等&)中等教育の把握
- ◆ 情報処理・統計処理技術
  - ◆ データハンドリング、データ解析、報告
- ◆ プレゼンテーション能力?
- ◆ 入試課との連携
- ◆ IR部門との連携
- ◆ 学内での発言力
- ◆ 他部局との協調

【私見】

- ◆ 高大接続を担っているという気概
- ◆ 高校と大学の関係性  
(単なる高校教員の支援ではなく)

27

## 11. 大学の悩み(続き)

- ◆ 「入試研究の面白さ」を伝えきれていない?
  - ◆ 入試成績・学業成績から判ること・解ること
  - ◆ 翌年度以降に活かすため
- ◆ 他にも...
  - ◆ 試験実施
    - 試験監督要領の複雑化・肥大化、全国的な統一措置対応、別室受験の増加、.....
    - [例] 説明会+リスニング試験予行演習: 4時間
  - ◆ 成績処理システムの変更
    - インターネット出願
    - 新たな教科の追加への対応等

28

## 入試研究の例

- ◆ 試験問題の特性を把握する手段としての“統計”
- ◆ いくつかの観点から
- ◆ 作題者に対して統計情報を提供(評価資料)
  - 平均、標準偏差
  - 設問解答率分析図
  - 得点分布
  - 入試問題の改善
  - 連関表
  - 個別対応(作題部会毎)等、...
- ◆ 大学スタッフとの共同作業
  - 合否入れ替わり率
  - 高大連携、試験情報の整備
  - 追跡調査
  - アンケート等、...
- ◆ その他、研究等
  - 得点調整
  - 不完全データへの対応
  - ◆ 分位点差縮小法
  - 研究開発：等化、評価方法、...

29

## 12. 若者の気質

- ◆ 多様性が浸透していると想像していたが、...
  - ◆ 「同調圧力」、横並び <====> 個性、独自性
  - ◆ 内向き志向。地元志向。世界に挑戦する者の育成?
- ◆ COVID-19が人間形成に与える影響は?
- ◆ 「効率的な学習」を求める
  - ◆ 「考える」ことの大切さ・面白さを伝えたい
- ◆ 「言語化の未熟さ」====> 次項

30

## 13. 言語運用能力の涵養

- ◆ 小学校国語科指導要領の「目標」「構成」の項
  - ◆ 3領域：「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」
- ◆ 論理的記述力：「大学入学者選抜改革推進委託事業」から派生  
文部科学省 5グループの1つ (2016-18)
  - ◆ 誤解なく正確に(過不足なく)主張を伝える技量
  - ◆ どうやって育成すれば良いのか?
    - バカロレアの哲学試験：論文試験の「型」
  - ◆ 年少期からの練習あるのみ？ 添削も有効？
  - ◆ 気付いた時に着手すれば実るのではないか？
  - ◆ 「読むこと(読書)」の重要性
  - ◆ 卒論が担っている部分も？ 初めての(?)自身の主張
    - 一方、書くことを強いられない者に対しては？

31

## 14. 「教養」の重要性

- ◆ 「教養」
  - ◆ 定義し難いもの。人によって捉え方も異なる。
  - ◆ 単なる「博識」ではない
  - ◆ 育成方法が不明・多様 <====> 「品」「常識」の修得も
  - ◆ 年齢と共に気になるものなのか？
  - ◆ AIで補えるものなのか？
- ◆ [私見] 5教科7科目の習得。18歳という年齢。
  - ◆ 文理振り分けの早期化の危うさ
- ◆ 高等学校教育の位置付け
  - ◆ 実社会とのつながりを求め過ぎてはいないか？

32



## 15. 思案し続けている話題(妄想?)

- ◆「人の魅力」って何? <=== 30年来の私の疑問
  - ◆意外と短時間で伝わるものなのか?
  - ◆峻別力: 年齢と共に増すものなのか?
  - ◆判断能力を入試・面接に活用できるものなのか?
- ◆不合格者が納得する理由付けは可能?
  - ◆面接だけの判定で理解が得られるのだろうか?
- ◆「覚醒時期」「発火時点」は個々人によって異なる
  - ◆人は変わる & 変われる。何が動機付け?
  - ◆出身大学名・学歴の無力さ。「良い大学」って何?
  - ◆少なくとも18歳には理解していただけないだろうなあ。

33

## 16. まとめに代えて(1)

- ◆高等学校と大学の関係:
  - お互いに相手を知り知恵を提案しあう。
- ◆生徒・学生には、
  - 「常に考える」ことの習慣 を伝えたい。
  - 「自分で考えることの面白さ」
  - ◆それらの一端が総合型・学校推薦型選抜に貢献するかも
- ◆生徒に寄り添っている高校教員の責務は重要
  - ◆向き合う時間を多く取れる方策を考えねば。
- ◆「言語運用能力」「教養」の奥深さ

34

## 16. まとめに代えて(2)

- ◆教員は「夢を持ってもらう仕事」
- ◆学校(高等学校、大学):
  - ◆「出逢いの交差点」: 勉強・人・モノ・考え方・...
  - ◆若者に「考えるネタ」を降り注ぎ続ける場
- ◆「自ら考え、行動する、活力ある若者」の輩出
  - ◆高等学校と大学関係者が手を取り合って若者の育成を支援する環境を。
- ◆私の話題は 時代遅れなのかもしれない。  
認識間違いがあるかもしれない。  
理想論に過ぎないのかもしれない。

35

## 当日の配付資料について

- ◆配付資料や引用元URLは以下URLに掲載してあります。
- ◆必要に応じてアクセスしていただき、ダウンロードしたり、関係Webにアクセスください。全て半角文字です。
- ◆3月中
  - ◆<http://stat.web.nitech.ac.jp/haifu/#Okayama2503>
- ◆4月以降(暫定サイト。将来変更の可能性あり。)
  - ◆<http://statds.shop/haifu/#Okayama2503>



(3月中用)



(4月以降用)

36